

Nutrition Support Times



第1回神戸スワローズ開催

8月8日土曜日NST嚥下チーム主催の第1回神戸スワローズを当院で開催いたしました。神戸スワローズって何？swallow = 食べ物を飲み込むという意味もあり摂食嚥下を考える会、いわゆる摂食嚥下研究会というものです。地域を巻き込んだ活動の第一歩としては、近隣の14施設、総勢60人あまりの参加をいただき、思いもよらない大盛況な船出を迎えることができました。今回は各施設の紹介をしていただきましたが、予想以上の反響？それもそのはずで、それぞれのところでいろいろな問題や悩みなど、いつも

言い切れない思いを、この会を通じて何か解決策またはヒントがないか見つけたいという切実な思いをもって、みなさん参加されました。また、NST本体の活動自体にも苦労されている施設もありました。これらの答えを解決方法を導き出せるような会にできるよう努力していきたいものです。地域連携が叫ばれる中、各施設との共通認識や理解をつくることの重要性は、講演していただいた足立先生のお話でも良くわかりました。この会を通じてより良い連携がつけられるように継続していきたいと考えます。皆さんの意見の中には誤嚥を失くす方法がないか、PEGのあり方、誤嚥のしにくい枕の開発など興味ある話もたくさんあり、地域全体で知恵を絞っ

て考えていく大変有意義な会にできるのではないかと思います。摂食嚥下については当院は決して進んだことができていくわけではなく、改善していくことが必要です。また急性期病院から取り組むことが重要なことで、回復期、長期療養、在宅、それぞれに向かう最初の段階に確立することが、その患者の将来を少しでもよくできるのではないかなと思うばかりです。次回も盛況な会になることを願っています。



NCM 講演会予定

月日	内容	担当
8/27	静脈栄養と感染	東別府先生
9/24	嚥下訓練実習	ST
10/22	未定	呼吸器内科

NSTカンファレンス・回診

毎週水曜日 13:00 ~

8階 861NST カンファレンスルーム

褥瘡と栄養

褥瘡回診は手際の良いWOCナースと皮膚科・形成外科医師・管理栄養士によってスピーディーに行われている。しかし、その数が多く回りきれないことも多い。院内で発生する率はほとんどないが、栄養状態が悪くて入院してくる患者に多い。褥瘡と栄養は切っても切り離せない関係がある。そのため早期に十分な栄養補給をするために経腸栄養の持続投与がしばしば行われる。患者は逆流、誤嚥を防ぐ

ため少なからずギャジアップされている。そこでれわれのジレンマが始まる。長時間ベッドのギャジアップでずれがおこり褥瘡ができやすくなる。といて経腸栄養を間歌投与にして注入速度を速めれば下痢となりさらに悪影響を及ぼす。ベッドのかたさ、体位変換など様々な工夫をおこなっても注入中は特に仙骨部が圧迫を受けてriskが高い。出来れば間歌投与に持ち込みたいが腸

管が経腸栄養に対応できるまでには時間がかかる。そのため十分な栄養投与ができなくなり、しかたなく末梢輸液や中心静脈栄養がおこなわれることになる。そして抵抗力もなく感染を起こし重篤な状態へとすすむことも少なくない。栄養は出来れば経口・経腸で摂取する事がお勧めである。このジレンマをうまく解消する方法に頭を悩ませています。

NCM 講演会

7月のNCM講演会は薬剤部の西岡薬剤師より静脈栄養についてお話をいただきました。投与上の問題点・代謝上の問題点などについてよく理解できました。実際に末梢静脈栄養では静脈炎などは頻繁に起こっており、看護師さんの中でも困ったことになっているようです。浸透圧濃度の高い輸液・投与の速度など注意すべき点を再確認してもらうことが必要です。TPNではブドウ糖の投与が0.3g/kg/時間を越えないように注意しなければなりません。再確認をお願いします。